

7 図画工作—第2学年の実践—

1 題材 「並べて 積んで 広がる世界」 ～ウッドブロックを使って～

2 題材について

- (1) 本題材では、ウッドブロックを並べたり積んだりしていく活動を通して、発想や構想を繰り返しながら造形してできた形の面白さや色の美しさを感じ取ったり、立体的に積み上げていく技能を発揮したりしていく。その中で、他者との見方や感じ方の違いを共感的に理解し、よりよい表現へと生かしていくことをねらいとしている。
- (2) 子どもたちは、題材「はさんでならべてつなげよう」では、材料の洗濯ばさみを思いのままに挟んだり並べたりしていく中でできた形や色を見立てながら、発想や構想を繰り返して、つくりかえていく経験をしている。中学年の材料や場所を基にした造形遊びへとつながる。
- (3) 本題材に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数36人)
 - ① ウッドブロックを使って遊んだ経験がある子どもたちは、12人である。高く積んで建物のような形をつくっているが、積み方を工夫して面白い形にした経験は少ない。
 - ② 学級全体で共同して、1つの造形物をつくりだした経験はない。
- (4) 指導にあたっては、次の点に留意する。
 - ① 第1次では、子どもたちが感覚を働かせながら、思いのままにウッドブロックを並べたり積んだりさせることで、活動の楽しさを感じ、主体的に取り組むことができるようにする。また、活動の中で表出された1:3:15の比率のウッドブロックでできる形の面白さに着目させることで、積み方の工夫について共有していくようにする。さらに「より楽しく活動できないか」と投げかけ、話し合わせることで新たな活動へとつなげていく。
 - ② 第2次では、第1次での話し合いをもとにして活動を設定していく。考えられるのは、新たな材料を取り入れることや建物などを街に見立てて造形していくことである。また、互いの造形物を鑑賞し感想を交流する中で、お互いのよさを認め合っていくようにする。
 - ③ 本時では、前時の相互鑑賞において、積み方の工夫によってできた形の面白さや並べ方の工夫によって生まれた色の組み合わせの美しさについて取り上げる。そして、その表現効果をもたらしている造形的な特徴について話し合うことで、見方や感じ方を広げることができるようにする。また、それらを自分たちの活動に取り入れていくように促していく。

3 題材の目標

- (1) 思いのままにウッドブロックを並べたり積んだりしながら、形や色などを基に自分なりにイメージをもち、造形的な面白さに気付くことができる。
- (2) ウッドブロックの積み方を工夫して面白い形をつくりだしたり、色の組み合わせを考えてウッドブロックを並べたりすることができる。
- (3) 友達の造形物や作品のよさを感じ取り、他者との見方や感じ方の違いを共感的に理解しながら自分の見方を広げていくことができる。

4 指導計画(5時間取り扱い)

- (1) ウッドブロックを用いて、思いのままに造形活動を行う。・・・・・・・・3時間(本時3/3)
- (2) ウッドブロックを用いて、話し合いの中からでた造形活動を行う。・・・・・・・・2時間

5 本時の学習

(1) 目標

造形物の形や色についての話し合いを通して、形の面白さや色の組み合わせのよさを感じ取り、積み方や並べ方の工夫に気付き、新たな発想へつなげることができる。

(2) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	備考
1 前時の学習を振り返り、課題を設定する。	3	○ 前時の相互鑑賞で出された友達の造形物の写真を提示し、課題を設定する。	造形物の写真
□□さんのつくったものの、どこが「面白い」「美しい」と感じるのだろう。			
2 形や色について話し合う。	10	○ 前時の相互鑑賞において、多くの子どもたちが「面白い」「美しい」と感じていた造形物を取り上げて、どこが「面白い」「美しい」と感じたのかを話し合わせる。その際、そう感じた根拠（造形的な特徴）が分かるように、造形物を指し示しながら説明させる。 ○ 子どもたちから表出された意見や考えを、形や色に分類し、写真や積み方の工夫などを線でつなぎながら整理した板書にすることで、関係付けているものが理解できるようにする。	実際の造形物（子どもの作品）
新たに発想したことを試しながら、並べたり積んだりしよう。			
3 話し合ったことから、発想したことを試しながら造形活動をする。	20	○ 話し合いの後「次は、どのような活動にするとよいか」と問いかける。子どもたちの意見を取り上げながら、意味のある試しの活動にしていくよう促す。 ○ 子どもたちの活動の様子や造形物（面白い形・積み方の工夫など）を写真で記録していくことで、積み方の工夫の共有や振り返りに活用していくようにする。	
4 本時の学習を振り返る。	7	○ 視点をもたせて振り返らせることで、メタ的に学びの過程を自覚化させていく。	
【評価】 形の面白さや色の組み合わせを感じ取り、材料の積み方や並べ方の工夫に気付くことができる。（観察、振り返りシート）			
5 次の活動について話し合う。	5	○ 次の活動について話し合わせることで、自分たちで活動をつくりだすよう促していく。	

6 指導の実際

※ 前時のおわりに、自分や友達がつくりだしてきた造形物を鑑賞させます。そこで、できた子どもたちの「〇〇さんの面白い。」などのつぶやきを捉えておきます。また、教師は、造形物の写真を準備し、提示できるようにしておきます。

(1) 友達がつくりだしてきた造形物を鑑賞し、そのよさについて話し合う。

発問

□□さんのつくったものの、どこが「面白い」「きれい」と感じるのだろう。

C □□さんのつくったものは、ボルタリングのかべに見えます。

T どこから、そう思うの？

C ここの（造形物の形を指で指しながら）ところが、曲がっていますよね。この形がボルタリングのかべに見えて面白いなと感じました。

C ぼくは、ちょっと違って、壺のように見えました。

C そうそう。私も同じです。

C 花を入れる壺、花瓶のように2つ曲がっているところからそう感じました。

※ 子どもたちは、造形物の色や形から感じたことを何かに例えながら発言するでしょう。そこで、教師が「どこからそう思ったの。」と問い返すことで、根拠となる造形物の色や形が明らかになります。子どもが感じたことと、明らかになった色や形を線でつないで板書することで、他の子どもたちと共有することができます。



相互鑑賞した作品



造形的な視点を意識した板書

(2) 話し合って見つけたよさを試したり、新たな発想をしたりしながら造形活動をする。

話し合ったことを生かして、並べたり積んだりしよう。

※教師は、子どもたちの活動の様子を観察しながら、称賛したり助言したりしていきます。そうすることで、子どもたちの活動が価値付いていきます。

T どんなところを生かしているの？

C 私は、さっきの話し合いで、色の組み合わせについてでいたので、色の組み合わせを考えています。

T どのようにしていきたいの？



活動のよさを価値付ける教師

- C これは、明るい建物にしたいから、明るい色、例えば、赤や水色を使っています。
- T そうなんだ。色のことを考えているんだね。
- ※ 造形遊びにおいては、子どもたちが思い思いに活動しています。そこでは、教材（材料）との対話や子ども同士の対話が行われます。

- C 熊本城の天守閣の色は、黒と白だよ。
- C そうそう。
- C 黒と白に分かれているけど、クルクル回っているようにしたいね。
- C どうやって積んでいけばいいかな。
- C 分かった。黒と白のブロックを交互にずらしていけばいいかな。
- C やってみよう。
- C すごい！らせん階段みたいになったよ。
- C ほんとだ。いいね。
- C 最後に黄色のブロックを置くと、天守閣に見えるね。



教材を介して対話する子どもたち

(3) 本時の学習を振り返る。

今日、学んだことはどんなことですか？

- ※ 子どもたちが学習における思考過程をメタ的に振り返ることができるようにするために、題材を通して、振り返りの視点をもたせておきます。
- C 今日は、〇〇君の積み方の工夫を取り入れて、自分でもやってみました。
- C □□さんの作品を鑑賞したとき、いろんな見方が出てきて、面白かったです。
- C 今日は、友達と協力して作ることができたことが、よかったです。
- ※教師は、子どもたちの振り返りを、価値付けたり意味づけたりして学びを自覚化させていくとよいです。
- (4) 次の活動について、話し合う。
- ※ 造形遊びをする活動は、活動そのものも自分たちで考えていくことが大事です。教師が押しつけてしまうと、造形遊びとはなりません。

もっと面白い活動にするには、どうしたらよいだろう。

- C 熊本城とかあるじゃないですか。何か街みたい。
- C そうそう。
- C だから、みんながつくっているのをつなげていくと、もっと街みたいになるね。
- C ああ、なりそう。面白そう。
- T ブロックで、それぞれつくったものをつなげていくと、街みたいに見えそう？
- C はい。だから、つなげていきたいです。
- T 分かりました。では、次の時間はそのことも考えていきましょうね。